

令和4年3月11日

標準学力調査(廿日市市学力定着状況調査<4年>)の結果について

廿日市市立大野東小学校
校長 谷本 直子

廿日市市では4学年を対象に学力定着状況調査を1月14日に行いました。それに合わせ、本校では全学年で国語・算数の2教科の学力調査を行いました。

学校としての結果、成果及び課題、今後子どもたちに力をつけていくための今後の学校での取組を以下の様にお示ししています。お子さんの個人票とあわせ、ご覧ください。

学 年	国語			算数			
	平均正答率	基礎問題	活用問題	平均正答率	基礎問題	活用問題	
1 年 生	本校	80.2	90.5	61.0	85.8	93.1	53.2
	廿日市市	78.4	87.0	62.1	85.0	91.6	55.7
	全国	75.9	84.6	59.5	80.6	87.5	50.2
2 年 生	本校	79.9	85.4	70.7	72.7	76.8	58.8
	廿日市市	82.4	87.9	73.2	75.8	80.1	61.2
	全国	81.9	87.8	72.0	72.3	77.8	53.7
3 年 生	本校	77.7	82.4	67.7	68.0	76.1	54.8
	廿日市市	77.5	81.4	69.2	73.4	81.0	61.2
	全国	75.6	79.4	67.5	68.9	76.5	56.7
4 年 生	本校	70.3	73.0	64.7	66.1	69.8	57.9
	廿日市市	73.0	75.3	68.7	70.5	74.5	61.8
	全国	69.3	71.8	64.7	67.3	71.2	58.6
5 年 生	本校	73.4	76.8	65.8	70.5	78.0	49.6
	廿日市市	69.6	73.0	62.0	68.1	76.0	46.1
	全国	68.9	71.7	62.6	63.8	71.7	41.9
6 年 生	本校	72.7	72.2	73.7	72.4	81.7	51.8
	廿日市市	73.1	72.6	74.0	76.2	84.3	58.3
	全国	69.2	69.6	68.6	72.4	79.8	56.8

<結果から分かること>

全国平均とほぼ同等の力がついています。

記述して答える問題ができない傾向があります。また、前半の問題に時間がかかり、最後まで解答できない傾向も見られました。

<今後の取組>

- 基本的な力を付けていくことがまず大切です。宿題の「音読」「計算」は子どもたちが学習を進めていくうえで一番大切な基礎となります。

「正しく音読する」ことが「読み取る」ことにつながるとともに、すべての教科の学習に関わります。また、「たし算・ひき算・九九」の定着が、「計算が正しくできる」ことへの自信に、そして「学習が楽しい」と思うことにつながります。学校でも、子どもたちの基礎的な力が付くよう指導していきます。

ただ、現在学校の一斉学習で音読を何度も行うことができない状況が続いているため、十分な場づくりができていません。「音読・計算」の宿題の時にはしっかり声を出すことを気にかけて聞いていただけると、子どもたちの意欲が高まります。

- 分からない問題に対し、「間違えてもいいからチャレンジしてみよう」という意識をもてるよう指導していきます。日常の授業から「やりきる」ことを子どもたちに意識させるとともに、進んで自分の考えをもち発表し、友達と共有することで考える力を伸ばしていきたいと考えています。

- ◎ 重要書類袋に個人票を入れてお渡ししています。

理解できているところや定着しているところ、またもう少し練習などが必要なところなどをお子さんと一緒に見ていただき今後の学習の参考にしてください。

- ◎ 来週月曜日に、重要書類袋のみ返却してください。

- ◎ 裏面に学年ごとの結果の様子や今後の取組を燃せています。あわせてご覧ください。



各学年の今後の取組

1年

国語科・算数科共に基礎的な力がついています。しかし、2教科共に応用に課題があります。条件に合わせて話したり、文章を書いたりする練習を行っていきます。また、読書に親しませ、様々な文章を読み、言葉の力をつけていきます。

算数科では、具体物を操作する学習を増やし、数の構成への理解や感覚をつけていきます。さらに、何を問われているのかをつかむために、問題文からキーワードを見つける練習を行っていきます。

2年

国語科・算数科ともに漢字や九九の定着などの基礎的な力はついています。国語科では、物語文で「場面の様子を読み取る」ことや「事柄の順序などの関係を読み取る」ことは全国値に到達している反面、「話し手が知らせたいことを落とさないように聞く」ことや「説明文を読み取る」ことでは、全国値を下回る正答率でした。発表者の意図を考えながら話を聞くよう、授業の中で取り組んでいきます。

算数科では、何十の計算を10のまとまりで考えることに課題が見られました。40+70を10円玉で考えるなど、具体物を提示して考えたり、買い物の場面を設定した問題に繰り返し取り組みませたりすることで、定着を図ります。また、時刻と時間を読むことにも課題が見られました。時刻や時間を問う場面を生活の中で増やし、家庭でも協力していただきながら、時計の読み方の定着を図ります。

3年

国語科は、全国平均を上回りました。基礎的な力が付いてきています。算数科は、全国平均を少し下回りました。特に、基礎的な計算（九九・繰り上がり・繰り下がり）をまちがえることによる回答が日頃の学習でも多々見受けられます。また、記述の問題に慣れておらず、問題の最後までできていないことが目立ちました。

4年生に向け、問題を時間内にやりきることを意識させ、3年生の学習の振り返りを行います。家庭では、音読や九九・計算などが4年生までに正しくできるよう、支援をお願いします。

4年

国語科は、「話し合いの内容を聞き取ること」「漢字の読み書き」についての正答率が高く、全国値を上回っています。全国値を下回っているのは、「文章を書く」です。問題文の条件通りに自分の考えを書くことも正答率が低いです。今後の取組として、指定された条件通りに文章を書くことの指導をすることが大切であると考えます。算数科は、「概数、計算のきまり、角の大きさ」などは、全国値と同等か上回っています。全国値を下回っているのは、「文章問題を解くためのわり算の立式」「垂直・平行と四角形の関係」や「わり算の性質を理解し、工夫した計算ができる」です。今後も基礎・基本を確実に定着させることが大切だと考えます。さらに、自分の考え方を数字や文字で説明することができるように指導していきます。

5年

国語科・算数科の正答率が全国値・廿日市市平均を上回りました。全体として国語科・算数科共に無回答が少なく、難しい問題にも取り組もうとする意識が身に付いています。しかし、国語科では漢字、修飾語などに言語事項に課題が見られました。そのため、漢字を文章の中で適切に使用できるように、日記や作文、新聞づくりなど実際に文章を書く場面を増やしていきます。算数科では、小数、単位量あたりの大きさに関する問題が全国値よりも下回っていました。3月に復習していききたいと思います。また、情報量が増えても問題の意図が読み取れるように式の読み取りや人の意見を立式化する練習に取り組んでいきます。

6年

国語科では、正答率が全国平均と比べ3ポイント、特に活用問題では5ポイント上回りました。しかし、情報を目的に応じた簡単な文章に表すことや自分の意見と理由を明確にした文章を書くことに課題が見られました。文章を読み取る力と共に、理由や根拠を基に構成を考えながら自分の考えを書くことに取り組んでいきます。

算数科では、正答率が全国平均と比べほぼ同じですが、活用問題では5ポイント下回りました。分数のかけ算・わり算における除数の性質や文字を使った式の意味の理解に課題が見られました。基礎基本の学習内容の定着を図ると共に、言葉や図、式を使って説明する思考力の育成に取り組んでいきます。